人と金

各地方とも、縣聯、地区の取扱小問題、事件が多くなってゐるにもかゝわらず、人と金は驚くほど不足してゐる。問題が多いのは昨今の農村情勢のしからしめるところであるが、一面組合にはいってくるものは事件持ちが多く、全農の中でも苦しい方のものが多くなったためでもあらう。

南秋、伊豆、千葉、和可山、奈良、福岡、北海道等は常務者が欠全してゐる。だが人の問題はそれだけではない。より大きな積極的な人の問題は新進幹部養成の立ちおくれだ。気持の上でも実践の上でもこれこそ新人と云はれるものが縣聯、地区の常務者として不足してゐるばかりでなく、部落、村にかゞへる程しかゐないと云ふのである。〝部落〟村にゐる古い幹部が組織の拡大強化の障害物とさへなりつゝあるところもある。金の点では全国的に見て最も強大な新浮縣でさへ常務者の生活に事欠く有様である。地方財政の逼迫は総本部活動、ひいては全国活動を弱化せしめるのが当然であるが、総本部はなにをおいてもこれだけは死守せねばならぬ。即土地と自由山の発行を辛ふじて続けてゐる仕末である。この全農の土台となる金と人の問題については、下から上までのすべての組織と機関によって、真剣に討論され、速かに対策を実行せねばならぬであらう。

全農の復興期

しかしながら、全農は長き亡亡滞から一歩を脱して復興期に向って居る。和可山、秋田、其の他の府県を除けば、何処も活気が出て来た。組織は、青森、宮城、岡山、三重、栃木、愛媛、古河等々漸

くのびつゝある。それ等の地方では青年もぼつ〳〵出てきてゐる。このことは総本部と地方の連絡文書が昨年同期の約二倍になってゐることによっても、説明されるであらう。